

月刊「ワークホームだより」 1月号

発行:2020年 12月 25日 発行者:ワークホーム高砂 〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331

TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



「雑談」の大切さ ~2021年への想い~

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

2020年は、新型コロナウイルスに振り回された一年でした。誰もが初めての経験で、何をどう対応したらいいのかが判らず、政府の対応も先手が打てずに右往左往した一年だったのではないのでしょうか。ワークも新型コロナに翻弄され、ほぼ全ての行事を中止し、密集、密接、密閉を避けることが至上命令であるかのような雰囲気の中で一年を過ごしました。しかし、ワークホームにとっては、「納豆工房なつこちゃん」という歴史に残る一大事業の立ち上げを10月19日に行い、関係者のご理解をいただきながら静かなスタートを切った記念すべき年でもありました。

こうした2020年を振り返りつつ切実に感じたのが、やはり人との直接的な接触機会が大切だということです。先月にも書きましたが、「人は人と人との交わりの中で人に成りゆく」ということです。一緒に笑い、一緒に活動し、一緒に涙しながら喜怒哀楽を共有しながら成長していきたい。目的性のある言葉のやりとりだけでなく、一見意味のない「雑談」の中にこそ、その人のことを深く知る手掛かりがあることを実感した一年でもあったように思います。

2021年もまだまだ新型コロナを意識しながらの暮らしが続きそうですが、利用者さんを深く理解するためにも、日々の雑談など直接的な声掛けを大事にしながら日常業務を粛々と進めていきたいと思えます。相手の立場にたって今の自分を振り返る謙虚な姿勢を常に忘れず、やさしさと思いやりのあるワークホーム高砂でありたいと思えます。

2021年も関係各位の変わらぬご理解とご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



年末年始の過ごし方について



全国で感染者数が再び増加しつつある中で、今年は“いつもと違うお正月”を過ごす事となります。買い物や初詣など、外出の機会には3密が予想されますので、日程をずらす等の対策を是非して頂くようお願いいたします。それに加えて毎日の検温や手洗い、マスクの着用も引き続きお願いいたします。

利用者さんやご家族の大切な生命・健康を守るため、一人一人が「うつらない・うつさない」との強い思いで取り組むことが大切です。一層のご理解とご協力をお願いいたします。(久木原)

1月の予定

- 1月4日(月) 仕事始め・全員出勤
- 1月6日(水) 作業日(17時まで)
- 1月9日(土) 全員出勤
- 1月13日(水) 清掃・工賃支給日(17時まで)
- 1月20日(水) 学習会
- 1月27日(水) 作業班会議

※20日、27日は15時終わりになります。

※4日、9日は利用者全員出勤となりますので
お間違え無いようよろしくお願いいたします。

ビニールカーテン取り付けました!

今年度は、新型コロナウイルスの影響で衛生区域と非衛生区域を完全に分ける為、玄関を北側(シャッター内)に移設しました。夏場は、シャッターを開けていても快適でしたが、冬場は冷たい風が吹き込んできて寒い状態だった為、12月17日にビニールカーテンを設置しました。これで風が吹き込むこともなく、お客さんが来ても迷わずに入っていただけではないかと思っています。今後も徹底した感染症対策と作業環境整備を両立させ、より良い作業場を作っていきたいと思えます。(楠)



新任パート職員さん紹介



名前:樋口 幹世さん
(ひぐち みきよ)
(クリーニング班)
一生懸命頑張ります!



名前:山中 てるみさん
(やまなか てるみ)
(クリーニング班)
今日も笑顔で頑張るぞー!
よろしくお願いいたします。



名前:中田 幸恵さん
(なかた ゆきえ)
(納豆班)
12月1日より納豆工房で働かせていただくことになりました。心を尽くして頑張りたいと思えます。これからよろしくお願いいたします。



名前:伏野 麻耶さん
(ふしの まや)
(納豆班)
利用者さんと楽しく仕事が
できるよう頑張ります。

今月の担当者は錦でした。

ご家庭でも丁寧なブラッシングを！！！！

12月3日、加古川歯科保健センター歯科衛生士によるブラッシング指導が行われました。今年はコロナ禍での実施となり、飛沫感染等の危険性もある事から、歯科衛生士と協力しながらしっかりと感染予防対策を講じた上でブラッシング指導を行って頂きました。利用者さんはそれぞれ自己流(?)の歯磨きを行った後で、磨けていない部分は歯科衛生士と一緒に歯磨き練習をしました。やはり皆さん奥歯・内側、歯肉と歯の間が磨けていなかったようです。磨きやすい歯ブラシはヘッドの小さい歯ブラシです。一度ご家庭でも見直されてはいかがでしょうか！?

歯は一生もの！今後の摂食活動にも関わりますし、新型コロナ等の感染症予防の一つにもなります。これからも感染対策を行いながら、ワークホーム高砂、納豆工房でも仕上げ磨きを継続していきます。ぜひご家庭でも声掛けなど宜しくお願い致します。(久木原)



クリーニング作業の今！

2020年を振り返って思うのは、利用者、職員共に成長出来た1年ではないかということです。10月に納豆工房ができた利用者の人数が激減した中での作業はとてつきつ、しんどかったと思います。利用者一人一人が自分の役割を果たし、時には大きな壁にもぶつかりました。その度に、職員間で課題を共有しアイデアを出しあいながら乗り越えてきました。改めて、「共有」、「チームワーク」の大切さを確認出来ました。

まだまだ課題は山積みですが今のワークなら乗り越えられると思っています。これからも利用者の成長を感じながら職員も共に成長していきたいと思っています。(吉中)



納豆工房なっとこちゃん



納豆作業の今！

12月から新しく納豆工房の製造に2名のパートさんが加わりました。11月20日放送のFMラジオの反響が大きく、放送前と比較して製造数が3倍以上に増えました。利用者さん、職員共に作業に追われる日々です。パートさんの助けもあって、職員が利用者さん一人一人と関われる時間の確保ができるようになってきました。これからもより衛生面に配慮しながら、安心して安全なおいしい納豆をたくさん作っていききたいと思います。(矢野)



実習生を迎えて

11月30日から12月4日の5日間、納豆作業においては初めて東はりま特別支援学校高等部2年生の実習生を受け入れました。実習生の方も初めての経験で、最初はかなり緊張していましたが、作業をする意欲はとて感じ取ることができました。

初の実習で「働ける」という本人の自信がつくと同時に、「この子は働けるのだろうか」と思っていた親御さんも自信がついたのではないかと思います。納豆作業担当者としても初めての実習生受け入れで戸惑うこともありましたが、良い経験を積むことができたと思っています。(大谷)



クリスマス会



毎年開催されているクリスマス会ですが、今年はコロナの影響もあり通常通り開催することができない為、衛生面とソーシャルディスタンスに気を付けながら、お昼休憩に保護者会が提供してくれた梅原のお弁当とロールケーキを利用者の皆さんに食べてもらいました。

食後に職員がサンタ帽をかぶり、ロールケーキを配り、皆さん美味しく食べていらっしゃいました。来年こそはコロナウィルスが終息し、クリスマス会が開催できることを願っています。(佐伯)

ラジオの反響絶大！！

11月20日(金)放送のKiss FM KOBE「4SEASONS」というラジオ番組で“なっとこちゃん”が紹介されました。パーソナリティのターザン山下さん、小林祐梨子さんにも“なっとこちゃん”を食べてもらい、ラジオで嬉しいコメントをたくさん紹介していただきました。その反響は絶大で、福祉アンテナショップの店舗やヤマダストアでも多くのお客様が来店して下さり、「ラジオを聞いて買いに来ました」「一度食べてみたいくて買いに来ました」など新規のお客様が増え、各店舗で品切れが続出するなど製造が追いつかない状況にまでなっています。

この機会をチャンスにして、“なっとこちゃん”を知って下さったお客様が根強いファンとなってもらえるよう、これからも信頼される商品作りに励みたいと思います。(桂)

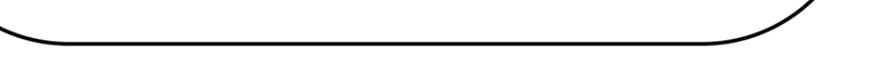


行動援護研修で新たな発見！！

11月21日、28日、12月5日の3日間、県知協が募集し「三福祉社カレッジ」が主催する行動援護従事者養成研修を受講しました。

自閉スペクトラム症の支援については、構造化、アセスメント(評価)、エビデンス(根拠)がどれほど大切かということを学びました。私はこれまで関係性だけで支援を行ってきました。調子がいい時には支援はできるが、乱れた時に対応できなくなることが少なからずありました。その度に行き詰まりゴールが見えない解決策を探りながら顔色、返答の声のトーンなどを頼りに答えを見つけました。しかし、今回の研修を受け、構造化することにより乱れたポイントが分かり、アセスメントができ、アセスメントに基づき実践を進め、エビデンスを確立していくと解決策も見つけられることを知り、これほど利用者にとって生き辛さを軽減できることはないと思いました。構造化によってストレスの軽減、課題の明確化と共有が確認しやすくなるのもわかりましたが、反面、人間味が無くなるのではないかと少し思いました。

人との関わりが難しいとされている自閉スペクトラム症の利用者に対して関わり方、関係性がどれほど大切かということも再確認される研修となりました。(吉中)



月刊「ワークホームだより」 2月号

発行:2021年1月26日 発行者:ワークホーム高砂 〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331

TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



グループホーム入居者の転倒

ワークホーム高砂施設長 齋藤 克己

昨年末、グループホーム希望山荘日笠を利用する女性入居者が転倒して怪我をした。幸い、大きな怪我ではなかったが、彼女の転倒をきっかけに様々と考えさせられることがあった。

彼女が入居したのは、今から8年前。一人で地域生活をしてきた時に、ガスコンロでやけどを負い、一人ではどうすることもできず適切な処置がなされなかった。心配した母親が相談事業所に連絡してグループホームの入居に至った。彼女は「てんかん」発作もあるのだが、相談事業所と出会うまでは精神科の治療を受けたことがなかったという。今思えば、やけども発作が原因なのではと思うのだが、一人生活だったから想像の域を超えない。入居当時の彼女は50歳代前半でコミュニケーションもしっかりと取れた。しかし今は「うつ状態」に入っていて反応も良くない。先日、甲状腺ホルモンの異常が発見され投薬が開始された。認知症状も見られてきたことから、市民病院で脳の断層写真を撮る検査も行った。お母さんはご高齢で介護を要する状態であり、ご家族の希望もあって彼女は現在、成年後見制度を利用している。

ところで、グループホーム希望山荘の環境は、彼女にとって決して住みやすい環境とは言えない。建物は段差だらけ、おまけに日笠山の中腹に位置するから道中は坂道である。決して広いとは言えない道路を歩いてホームへ行くのは元気な人でないと難しい。そして、道路からホームに入るには急な階段があり、一人では危ない環境。だから、彼女の外出には必ず職員が付き添い公用車で出かける。もしも、平地にホームがあればもう少し歩いての外出もできると思うのだが、希望山荘の環境では難しい。数年前まではしっかりと歩いていた階段は、今は彼女一人では危ない。

人は必ず老いを迎える。彼女を見ていると実感する。「このまま、ここでいつまで見てやれるのだろうか？」と悩む日々が続いている。しかし、視点を変えて彼女の人生を考えてみるとどうだろうか。段差のない建物、階段のない入口、ゆったりと入れる広い浴室と介護用入浴機器、作業を中心とした日課からゆったりと余生を送れる余暇活動など、「自立のための支援施設」から「介護のための施設」に移れたら、彼女もそして職員の負担ももっと軽減され、みんな今よりも幸せなのではないか。そうだとしたら、積極的に介護系事業所の利用を考えるべきなのではないかと考え始めている。

「希望山荘でもっと見てやりたい」という想いと、「そろそろ限界なのではないか」という想いが交叉し始めている。そして、この問題は、全てのワークホーム利用者に共通した課題であり、社会福祉法人あかりの家に突き付けられた課題だと重く受け止めている。

2月予定

3日(水) 作業日

10日(水) 清掃、工賃支給日、避難訓練

17日(水) 職員会議

24日(水) 学習会

※2月17日と2月24日は15時終わりです。
お迎えの方はお間違えの無いように、よろしくお願いします。



新型コロナ感染対策!



《フェイスシールド導入 ~ワークホーム高砂~》



新型コロナウイルス感染予防対策の一つとして、フェイスシールドを導入しました。昼食後の歯磨きの仕上げ磨きを中心に、職員がマスクと併用して装着しています。

飛散したウイルスが目や口、鼻粘膜へ入らないように職員を守り、そして利用者さんにうつさないとの思いで、見えないウイルスと日々戦っています。(久木原)

《うつらない・うつさない工夫~希望山荘日笠~》

希望山荘のコロナ対策は、久木原看護師の指導を基に手洗いうがい消毒の徹底をしています。またフェイスシールドやパーテーションを使い「うつらない・うつさない」を心がけています。中でも3度の食事は10人という大所帯でもある為細心の注意を払って前後左右感覚を開け2部に分かれて行っています。みんなでワイワイ楽しく食べることができず、何かと我慢が多い日々ですが、「コロナが終わったらまたみんなで喫茶店へ行こう!」と目標を立てて頑張っています。(木澤)



今月の担当者は佐伯でした。



納豆工房なっとこちゃんの取り組み

なっとこちゃんの販路拡大！！

1月7日から JA 兵庫西の「旬彩蔵 飾磨」において「佐用もち大豆納豆」の販売を開始しました。JA 兵庫西さんで“なっとこちゃん”を販売するのは今回が初めてで、JA 兵庫西さんには佐用もち大豆を購入させていただいている縁もあり、そこで販売できることを大変嬉しく思います。

残念ながら「旬菜蔵 飾磨」さんでは、佐用もち大豆納豆のみの販売になりますが、近くに行かれた際には、一度寄ってみてください。（桂）



新たなチラシをポスティング！

納豆工房オープン時に作成したチラシから、バージョンアップしたチラシが新しく完成しました。今回のチラシは、納豆の種類ごとに細かく商品紹介をしており、前回のものよりも詳しく「なっとこちゃん」を知って頂けるものになっています。また、たれ・からし、しそのり、小粒、もち大豆の4種詰め合わせも新たに商品化されています。1月31日までのプレゼント引換券がついているため、寒い中ではありますが利用者さんたちもポスティング作業に取り組んでくれました。チラシをもって店舗に来てくださるお客様もおられ、ポスティング効果もありました。これから少しでも多くの方に納豆を知ってもらえるよう頑張っていこうと思います。（矢野）



クリーニング 年始からの作業



今年も早いもので一ヶ月が経とうとしています。皆様どんな年末年始をお過ごしになられたでしょうか。クリーニングの作業については、毎年恒例とも言える年末年始分の商品を片付けるところから始まりました。年始初日、目の前に広がる大量の商品に圧倒され「今年も始まるなあ！頑張るぞ！」と気持ちを奮い立たせて利用者、職員共に作業に取り掛かりました。皆さん、お正月話も積もるところですが作業中は真剣な表情で黙々と溜まった商品を片付けていきます。そのおかげで1週間で通常の作業量に戻すことができました。これは一人一人の働く姿勢、作業スキル等の向上があっただけと感じています。昨年から、コロナウィルスの影響もあり、様々な場面で「楽しみ」が減ってきているように思います。その中で今年は作業を通して「楽しさ」を感じられるような一年にしていければと思います。（宮本）



障害福祉サービス

提供日を週6日に！！

納豆工房なっとこちゃんがオープンして3ヵ月が経ち、アンテナショップへは多くのお客様にご来店いただけるようになりました。また、ラジオなどの影響もあり、販売数も大幅に増加したことから、本年1月からは、生産数向上のために障害福祉サービスを6日提供することにしました。それに合わせて利用者の公休日を振り分けることとなり、希望山荘では各々のニーズに応えやすく、より充実した余暇活動が行えるようになりました。（大谷）

アンテナショップ初めてのお正月

納豆工房なっとこちゃんが10月19日にオープンして、初めてのお正月（年に一度のアンテナショップ定休日）を迎えました。そのため、年末年始もお客様になっとこちゃんを食べて頂けるようヤマダストア様に普段より少し多く商品を置かせていただきました。

今回、新しい環境になって初めてのお正月ということもあり、賞味期限を考慮した製造数や納品数については、まだまだ多くの課題があると思われました。初めてのことに尽くしの納豆工房なっとこちゃんですが、今回の経験を活かしてパワーアップしていきたいと思えます。（吉田）

洗濯業務への参加

1月20日、これまでGOTOさんの職員だけで行われていた洗濯場に初めて入り、洗濯機を使っただけの作業を体験しました。開設当初は職員や利用者も洗濯作業場に入っていました。しかし、約10年間はGOTOさんの社員だけで行なっていました。しかし、GOTO会議のなかで「工場全体の流れを把握しないとより良い工場運営はできない」との意見が出され、今回の体験となりました。新しい経験を通して、今後のワークホーム高砂の運営に活かしていきたいと思えます。（楠）



おはようございますの挨拶 ～朝の送迎～

現在、新型コロナウイルスの影響を受ける等、様々な理由から自力通所が難しい大内さん、丸山さんについては送迎体制をとり、安全に通所できるよう努めています。朝についてはオリーブの家の早出職員が送迎を行っています！オリーブの家を出発後、まずはJR曾根駅まで大内さんを迎えに行きます。「おはようございます！」と元気よく挨拶を交わした後、次はあかりの家まで丸山さんを迎えに行きます。「行ってきます！」とあかりの家の職員に伝え、元気よく車に乗り込み、ワークホームへと向かいます。毎日、お二人の元気のよい挨拶を聞きながら私たちも一日の始まりを実感しています！（宮本）



月刊「ワークホームだより」3月号

発行:2021年2月22日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



10年たったら・・・

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

10年たったら、62歳の僕は必ず72歳になる。

こんな当たり前の問いかけを、一度自分自身にしてみませんか。そうすることで、これからの10年を自分はどう生きるのか、どう生きなければならないのかを考えるきっかけにしてほしいと思うのです。自分自身の10年後、家族の10年後、新型コロナが蔓延する今の社会の10年後……。問いかけるその内容は、その人それぞれでいいのです。ただ大事なことは、10年後をポジティブに描いてみることにあります。暗く考えずに明るく生き生きと考えること。願望でもいいから10年後の素敵な自分を描いてほしいと思うのです。そして、10年後のあなたの姿は、今のあなた自身の連続した生き方の延長線上にあることをしっかりと確かめてほしいと思うのです。10年後の自分と今の自分は決して別物ではないということです。

新型コロナが人々の暮らしを一変させ、明るい未来を描くことが難しい社会。格差は開き固定化され、生きにくさはどんどんひどくなりつつあります。自己責任論が強調され「先ずは自助！」などと首相が言うようでは、政治にも期待が持てない。それでも「10年たったらこんな社会の中で、こんな自分でいたい！」と明るく未来の自分を描くことで、少し元気のない自分や周りの人々を励ましてほしいと思うのです。

10年前、僕はあかりの家の副園長として1年目を迎えていました。1年目が終わろうとしていた3月には東日本大震災があり、何もかも飲み込んでいくあの津波の映像をライブで見た時の衝撃は忘れません。つい先日「震度6強」というあの時を思い出す余震がありました。新型コロナの感染は、誰も予想しなかった出来事でした。つらい経験もたくさんしましたが、悪いことばかりではありません。良いこともたくさんありました。クリーニング工場で働く利用者さんの成長、納豆工房なつこちゃんの新たな出発など、仕事でも私生活でも様々な経験をさせてもらった10年でした。

そして、僕自身のこれからの10年は、すぐそこに迫っている「退職」という人生の節目も含めて、大きく暮らしが変わる10年になると考えています。しかし、ワークホームでやらなければならないことは、まだまだたくさんあり、最後まで走り続けようと思っています。

さて、10年たったら・・・みなさんはどこでどんな暮らしをしているのでしょうか。そして、そのために、今をどう生きますか。

手洗い後の手指消毒



手洗い指導や日々の練習で、利用者さんの手洗いは上手になってきていますが、なかなか完璧に洗えているとは言えない状態です…。そこで、仕上げ磨きのように、手洗い後はアルコールによる手指消毒をしてもらっています。今では、利用者さんと職員の間で「皆シュッシュッしようね。」が合言葉となりました。その反面、手指消毒による手荒れが出てきていますので、ご家庭でもハンドクリームなどで保湿をお願いします。

(久木原)

3月の予定

3月3日(水)	会議日
3月10日(水)	清掃・工賃支給日・避難訓練
3月17日(水)	会議日
3月24日(水)	学習会
3月31日(水)	会議日

※会議日は15時終了、それ以外は17時終了です。
お迎えの方はご注意ください。

避難訓練を行いました！

2月10日、毎年恒例の避難訓練を行いました。今回は作業中の火災を想定し、初めてクリーニング作業場からの避難を行いました。いつもとは違う場所からの避難でしたが、みなさん今までの訓練の積み重ねにより、真剣な表情でトラブルなく速やかに避難することができました。現在、季節的にも「静電気」による火災が増えているとのことです。万が一の際、一人ひとりが慌てずに対応できるよう、今後とも定期的な訓練を行っていきながら災害への意識を高めていけたらと思います。(宮本)



医療関連サービスマーク継続認定

ワークホーム高砂は、開設当初より医療関連サービスマークの認定工場として運営してきています。医療関連サービスマークとは、病院で使用した寝具類を洗濯するため、高い洗浄技術と徹底した感染症対策を実施している施設を医療関連サービス振興会が認定する制度です。3年に1回更新の為に認定調査が実施され、今年度はその更新年でした。9月に書類審査を受け、11月に現地調査が行われ、この度2月1日付けで無事認定を継続することができました。これからも日頃の積み重ねが認定に繋がるよう職員一同頑張っていきたいと思っています。(楠)



今月の担当は矢野でした。



コープこうべ つながるマルシェ



コープこうべとNPO 法人兵庫セルフセンターによるイベント

「つながるマルシェ」が2月から始まっています。このイベントに「納豆工房なっとこちゃん」として参加し、納豆の販売を行っています。「納豆工房なっとこちゃん」としては、2月はコープ姫路田寺店、コープ新多間店、コープ西神南店、コープ神吉店、コープ播磨店に参加しました。今後は【コープ高砂店 3月1日(月) 10:00~】、【コープテイズ神戸西店 3月10日(水) 10:00~】、【コープ稲美店 3月23日(火) 10:00~】に参加する予定です。機会があれば是非足を運んでください！(桂)

2月8日(月) ● 姫路田寺店



2月10日(水) ● 新多間店



2月15日(月) ● 西神南店



2月16日(火) ● 神吉店



新事業所 & 商品紹介

福祉アンテナショップの考え方に賛同して下さる事業所様が増え、新しい商品がどんどん入荷しています。今後も増える予定ですのでお時間のある時には、納豆工房のアンテナショップに足を運んでください。

1/20 から加古川市にある「有機茶房 ごえん」→ **コーヒー・黒豆・マスク**

1/26 から福崎町にある「たかはしサポートセンター」→ **もち麦**

2/16 から加古川市にある「ドレミ農園」→ **しいたけ**

2/21 から三木市にある「まほろば」→ **クリームパン**

2/23 から神戸市にある「光生園」→ **お味噌** も入荷しています。

(大谷)



作業を担うパートさん

納豆



納豆製造作業では3名のパートさんと一緒に働いています。パートさんには、豆洗いや豆炊き・納豆菌準備等を担って頂き、以前よりも効率良く作業が回るようになり製造量を増やすことができるようになりました。また、利用者さんとの作業では、ラベルの確認や製造時の検品などをお願いしています。(吉田)

クリーニング



工房の壁が華やかに!!

2月2日、納豆工房に利用者の藤野さんのお婆様が描かれた油絵3枚を設置させていただきました。外観の壁、階段の壁、食堂の壁にそれぞれ1枚ずつ、飾らせていただきました。何もないシンプルな壁が油絵を飾ったことで一気に華やかになり、利用者さんたちも「像の絵や!」「すごいなあ!」等と、嬉しそうに話す姿が見られました。(矢野)



朝の送迎の変化

ワークホーム高砂の職員は、グループホーム利用者などの送迎も担当しています。以前は、グループホームの早出職員が担当していましたが、利用者の高齢化に伴う安全性や自閉症の方の安定性を考慮して、クリーニング担当職員と納豆職員が担当しています。

また、他事業所に通っているグループホームの利用者については、希望山荘の早出職員が一度納豆工房の駐車場まで送り届け、そこで他事業所の職員に引き継ぐといった流れを作っています。(桂)



月刊「ワークホームだより」4月号

発行:2021年 3月 25日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



春を迎えて・・・さあ、スタートだ！

ワークホーム高砂施設長 齋藤 克己

3年に一度、私たち事業所の経営に直接関係する障害福祉サービス費（報酬）の改正が行われます。今年はその改定年であり、4月から新たな報酬基準がスタートします。

先日、リモートによる厚労省幹部職員の説明会に参加し、今回の特徴として「重度者」「高齢者」「支援困難者」に対する手厚い支援を行う事業所に対しては、高い報酬が支払われるとの説明がありました。そして、就労B型事業所については、高い工賃の支払い実績がある事業所に対して高い報酬が支払われるとのことでした。この考え方は、これまでも同様に進められていましたので、特に珍しいものではありません。しかし、以前よりも「重点化」が進み、今後においてもこの基本的な考え方は変わらないのではないかと思います。何故なら、そもそも「福祉」とは、生活に困難性を持つ方々に対する施策で、「軽度者」よりも「重度者」に、「若者」よりも「高齢者」に政策の重点が置かれるからです。ワークホーム高砂の今後の安定経営を考えた場合、「生活介護事業」については、支援区分の高い利用者（支援区分6，5）を受け、B型事業所については、限りなく高工賃を目指す方向性を追求すればいいのだと思います。そういう点では、これまで私が施設長になって追求してきた基本方向は、間違っていないのではないかと思います。

ところで、2021年度は、二つの数値目標を掲げて果敢に挑戦したいと思います。まずクリーニング事業については、GOTOさんとのルールである「業績賞与」を年間100万円にするという目標を掲げて取り組みます。例年は、概ね80万円程度ですので、大台を目指して生産量を上げたいと思います。そのためには、職員も利用者も効率的な働き方を追求し、同じ労働時間内で生産量を上げるための課題整理とそれに対する具体策の立案・実践、加えて利用者と職員のパフォーマンスの向上などに取り組みたいと考えています。

もう一つの数値目標は、納豆の年間売り上げを800万円に設定するという事です。納豆工場の店舗とYAMADAストアの販売に加えて、新たに農協店舗（ふぁーみん）にも置かせていただくことになりましたが、もっともって販路を拡大し5年を目標に1000万円に引き上げられるようにしたいと思います。当面は、販路拡大と安定した製造に加え、新商品の開発にも取り組むことを目標にします。そして、2022年度からは、より重度の利用者を納豆工場で受けられるよう作業分析を進めると同時に、専門的支援力の向上を4月からの目標に掲げたいと思います。

近くの公園では、早くも桜が咲き始めました。桜の開花についても「例年」という表現が意味をなさなくなってきたように、事業の展開についても過去踏襲型の発想に終わることがないよう、4月を新たなスタートラインにしたいと思います。本年度も、新型コロナとの戦いは続きますが、保護者、関係者の皆様のご支援をよろしくお願い致します。



4月の予定

- 4月 7日（水） 会議日
- 4月 14日（水） 季節行事・工賃支給日
- 4月 21日（水） 会議日
- 4月 28日（水） 学習会

※4月14日の「季節行事・工賃支給日」以外は15時終了となります。お迎えの方はご注意ください。

みなさん、一年間お疲れ様でした🍷

3月24日、今年度の頑張りを称え「一年の振り返り」DVDの鑑賞会を行いました。例年であれば保護者の方々と盛大に盛り上がっていたところですが、今回は新型コロナウイルス感染予防の観点からDVD鑑賞会という形にさせていただきました。今年度は行事も少なく寂しい一年となりましたが、DVDを観るみなさんの笑顔で寂しさは吹き飛んでいきました！今回のDVDについては各ご家庭にも配布しますのでご覧になって下さい！（大谷）



消火訓練を行いました！



3月10日、防災の意識を高めていく為、先月に引き続き消防訓練を実施しました。今回は避難訓練に加え、水消火器を用いた消火訓練を行いました。みなさん、水消火器の使い方に少し戸惑いながらも最後にはしっかりと“消火”することができていました。

普段、どこにでもある消火器ですが意外と使用法は知らない方も多いようです。今後は消火訓練にも力を入れ、できる限り多くの方に経験してもらおうようにしていきたいです。（宮本）



今月の担当は宮本でした。

作業、一年の振り返り

～コロナ禍の中で歩み続けた一年～



2020年度のクリーニング作業は機械の経年劣化に伴う作業停滞から始まり、布団の入れ替えや新商品による作業増大で作業に追われる日々が続き、ようやく作業が落ち着いたのは暑さも和らいだ9月末でした。それも束の間、10月には納豆工場開設に伴い、クリーニング作業の利用者人数が減少し、誰しも「この人数で出来るのか」「作業進捗は大丈夫なのか」と一度は頭をよぎらせたと思います。しかし、そんな思いを払拭するように利用者みなさんが目の

前の作業に精一杯取り組んでくれたことが印象的でした。その反面、支援員の立場として「まだまだできることがあるんじゃないか」「職員が利用者の可能性を狭めているのではないか」と痛感させられたのも事実です。今年は新型コロナウイルスの影響もあり、生き辛いことも多々あったと思います。そんな状況でも、利用者、職員、全員で止まることなく前に進み続けることが出来たお陰で、今があると思います。今後も試行錯誤しながら作業・支援に取り組んでいきたいと思っています。(吉中)



～新たな歴史をスタートさせた一年～

2020年度、納豆作業は大きな変化を迎える1年になりました。2020年4月から新納豆工場『納豆工房なっとこちゃん』の工事が進み、6月頃からは毎週職員が集まり、建物についての打ち合わせや、新商品の開発等、様々な検討を行いました。2020年10月には、納豆工房なっとこちゃんの完成に伴い、2013年8月から約7年間お世話になった希望山荘敷地内の納豆作業所での作業に幕を閉じました。と同時に、納豆工



房なっとこちゃんが、新商品「佐用もち大豆」納豆と共に新たな歴史をスタートさせました。作業スペースも広く製造量も約3倍増やすことが可能になり、徐々にではありますが、念願であった販路拡大にも繋げることが出来ました。

また、福祉アンテナショップでは、取り扱う商品も増え、今では16事業所の商品を取り扱わせていただくようになり、他の事業所との繋がりも広がる1年となりました。今年度は、利用者さん・職員共に初めてのことが多く挑戦の年になりましたが、協力しあいながら一丸となって笑顔で過ごすことができたと思います。(吉田)



新たな挑戦！！～自力通所への道～



昨年、特別支援学校を卒業し、新たにワークホームの一員となった大内雄喜さん。早いものでワークホームに来てから約1年が経とうとしています。持ち前のフレッシュさを武器に日々作業においても新たな内容に挑戦中です！そんな中、次の挑戦として「自力通所」を掲げました。これまでは、毎日お母さんと一緒に東加古川駅から曾根駅まで電車で通所し、曾根駅からは送迎職員と車でワークホームへ向かうという流れでした。「お母さんがホームから見守る中、待合場所にて一人で職員の迎えを待つ」ことから始まり、少しずつ“一人”の時間を増やしていき、現在は「朝、東加古川駅でお母さんと分かれた後、一人で電車に乗り、曾根駅まで来る」ことができています。「さすが大内さん！」と言いたいところですがこんな事件もありました。取り組み開始後、初めて曾根駅から一人で帰った日のこと。本来東加古川駅で降りるはずが、一つ手前の加古川駅で降りてしまったのです。その後、なんとかお母さんと再会することができましたが結果的に「成功体験を積み重ねる」とことは真逆の初日からの失敗となってしまいました。この時、正直言うとお母さんからは「やっぱり無理ですね」という言葉が返ってくるのではないかと不安がよぎりましたが、返ってきたのは「明日からもやります！」という強い言葉でした。親としては心配で仕方ないと思いますが、雄喜さんの今後の人生の為に少しでもできることを増やしてあげたいという思いがあつたことだと思っています。一言、「無理」と諦めてしまえば「ゼロ」のままですが、一つ一つ経験を重ねることできると人生の幅は広がっていくと思います。ワークホームとしても今後も人生の幅を広げるお手伝いができればと思っています。(楠)



近況報告！

+NUKUMORIで納豆販売！！

先月からお世話になっているセルフとのご縁で、3月13日、20日と2回にわたり、「+NUKUMORI」ショップにて“なっとこちゃん”の販売を行いました。「+NUKUMORI」ショップは神戸の元町商店街にあり、ワークホームとしては、初の地元商店街以外での販売で当初は不安もありましたが、ありがたいことに沢山の方に購入していただくことが出来ました。

地元を離れた販売は“なっとこちゃん”を知らない方も多く、購入を躊躇されることもあります。知名度を上げるきっかけづくりの為に今後も積極的に販売を行っていききたいと思います。(桂)

《行動援護研修に参加》

3月7日、14日、21日の計3日間に渡って開催された「行動援護従事者養成研修」に参加させていただきました。様々な講演を聞く中で特に印象的だったのが「構造化」でした。利用者にとって分かりやすく、活動しやすい環境に整えることで穏やかな生活に繋がることを学びました。しかし、ただ環境を整えればよいという単純なものではなく、一人ひとりの性格・障害特性等を細かく情報収集し、しっかりと職員間で共有し支援を組み立てていくことが重要であるとのことでした。今回の研修を通して、障害を持つ方々への支援の奥深さを再認識させられました。これを今後の自身の専門性向上に繋げていきたいと思っています！(錦)

「昨年度は専門学校から実習生として来られ、今年度からワークホームの支援員となった錦さん。まだまだ勉強中ですが一生懸命、日々の業務に励んでいます！そんな中、専門性向上の為に先日研修に参加してきたとのこと感想をお聞きしました！」



月刊「ワークホームだより」5月号

発行:2021年4月23日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



新型コロナウイルス対策はうまく進んでいるのか・・・

ワークホーム高砂施設長 齋藤 克己

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない。新規感染者数が兵庫県でも500名を超えるなど、昨年の緊急事態宣言時よりもひどい状況にある。何よりも感染力の強い変異型ウイルスが広がっていて、ワクチンが効くのかどうかさえもはっきりしない。それでも、ワクチンは感染症対策の重要な柱であることに間違いはないが、接種率は遅々として進まない。国内でワクチン製造が出来ないため、ファイザー社などの外国企業に頼らざるをえないのが原因だという。新型コロナは、人が人にうつすメカニズムのため、人同士の接触を減らすことが必要で、特に不特定多数の人と接しないことが必要なのだという。そして、「飛沫」から感染するためマスクを外す場面を極力減らすことも必要だ。そのため、複数での食事場面を避けることが何よりも必要なのだと、毎日のようにマスコミも告知している。

しかし、夜の街で飲む人は減らない。時短営業を訴えても、それに従わないお店があったり、店の外では「路上飲み」の人が増えているという。どうやら、国や地方自治体が「自粛してください、複数での会食・飲食は避けてください」と、訴えても「自粛はもうしんどいから・・・感染しても軽症だし、無症状が殆どでしょ」と、政府や自治体の訴えなど意に介さない人もいようだ。「自粛」やマスクなどの感染症対策マナーは、自分のためだけではなく他者にうつさないためのものでもある。結局、「自分さえよければ」などと勝手な行動をとることが感染を広げ収束を遅らせる結果となっている。

何故こうも感染対策はうまく進まないのか。勝手な行動をする人がいるからと、個人を攻めてみても問題の解決にはならない。問題なのは、国の取り組み方針がブレブレで、「自粛」を本気で考えにくい政策だからだと思う。「県域を越えての移動は控えてください」と「自粛」を呼びかけながら、一方で「GOTOキャンペーン」で人の移動を推進しているし、聖火リレーは各県を順番に回っている。外国から数万人が来日する「オリンピック」の開催については、国民の約7割が中止や延期を求めているにも関わらず、開催を強行するのは何故なのか。どう考えても「感染対策」に本腰を入れているとは思えない。ワクチン接種の順番にしても、当初は、医療関係者が最初で、その後で「65歳以上の高齢者」「基礎疾患のある人」だったのではないかと。それなのに、いつの間にか順番が変わっている。政府がきちんと接種方針を示さず地方自治体に丸投げしたのだから、早い者勝ちの自治体では電話が繋がらないなどの混乱も起きた。当然、予想されたことである。

今必要なのは、政治の「明確なメッセージ」とそれを裏付ける政策、予算の投入である。ワクチン製造や治療薬の研究に大きく予算を投入してほしいし、「自粛」を本気で考えなければならない一貫した政策を打ち出すべきだ。感染を抑えるためには、人が動かないようにしなければならぬ訳だから、「自粛」という行動変容に繋がる政策こそが必要だ。そんなことを苛立ちながら考えているのは、私だけではないと思うが、どうだろうか。

保護者会総会（書面決議）にご協力ください！

いつも保護者会活動にご協力いただき誠にありがとうございます。保護者の方々には、既に通知させていただいておりますが、本年度の保護者会総会は、昨年度同様に新型コロナ感染対策の一環として書面決議で行うことにいたしました。6月、7月実施予定の環境整備行事の参加確認も含めまして5月5日（水）を締め切りとしていますので、ご協力をお願いします。

（ワークホーム高砂保護者会長 藤野 洋一）

5月の予定

5月5日(水) 作業会議
5月12日(水) 清掃・工賃支給
5月19日(水) 職員会議
5月26日(水) 職員学習会

※5月12日の「工賃支給日」以外は
15時終了となります。
お迎えの方はご注意ください。

2021年度職員紹介
今年度もよろしくお願ひします!!



今月の担当は大谷でした。

2021 年度目標

クリーニング



納豆：製造部門

本年度も、安全・安心で美味しいなっところの製造を第一に、利用者さんと職員が一丸となり衛生面を意識ながら製造をしていきたいと思ひます。また、昨年度の「佐用もち大豆」納豆に引き続き、今年度も新たな商品をラインナップできるよう商品開発を進めていきます。そして、年間売上高 1200 万円を目標に少しでも多くの方に「なっところ」を知って頂き、なっところファンを獲得できるように努めていきたいと思ひます。本年度もよろしくお祈ひします！（吉田）

納豆：販売部門



本年度は、「納豆工房なっところ」として納豆販路の新たな歴史が刻めるよう、百貨店での催事場所での定期販売や納豆工房発信のイベント企画を実施し、より「なっところ」を知って頂くよう製造部門と一丸となって邁進してきます。これまでと同様、ご愛顧を頂きますよう宜しくお祈ひ申し上げます。（金本）

本年度の目標を2つ掲げます。1つ目は、「業績賞与」100万円です。昨年度は80万円程ありましたが現状に満足せず大台に乗せたいと思ひます。そのためには、作業環境並びに職員、利用者の育成、チームワークが必須だと考えています。試行錯誤しながら作業の効率化を図りたいと思ひます。2つ目は、職員による「クリーニング師」「病院寝具管理士」等の資格取得です。専門性を高めることにより製品の質を向上させ、より良いサービス提供に精進してきます。

本年度も厳しい一年になると思ひますが夏の暑さ、冬の寒さに負けずチームワークを大切にしてみんなで乗り越えていきたいと思ひます。「働く楽しさ」を忘れず力を合わせて頑張っていきたいと思います！（吉中）

なっところちゃん news

ふあ～みんでの販売を開始



JA 兵庫南のなっところちゃんファンの職員さんからお誘ひがあり、3月23日からJA兵庫南「ふあ～みん」5店舗（にじいろふあ～みん、高砂店、神吉店、八幡店、播磨店）で販売を開始しました。大粒納豆2種類・小粒納豆・極大粒納豆の4種類を販売しています。お近くに來られた際には、ぜひ立ち寄りください。（大谷）

本年度も『佐用もち大豆』を確保

4月7日、本年度の佐用もち大豆を引き取りに、佐用町の兵庫西農業協同組合へ行ってきました。本年度は1200kgのもち大豆を確保することができ、今回は300kgを持ち帰りました。年度初めという事で佐用町役場にも立ち寄り農林振興課と農林水産振興室に挨拶をさせていただきました。本年度は佐用町の皆さんと協力して、新たな取り組みができたと思っています。（楠）



季節を感じに散歩へ行きました



4月21日、季節を感じる会と題し、天川東公園へみんな散歩にいきました。4月下旬であった事もあり、あいにく桜はほとんど散ってしまっていたのですが、丁度良い気候の中で気持ちよく歩くことができました。外出を自粛せざるを得ない状況が続いていますので、良い気分転換になったと思ひます。来年こそは、お菓子を食べながら桜を楽しめるようなお花見ができたらと思ひます。（矢野）

ワークホーム高砂⇔あかりの家 ~4月1日付で異動がありました~



名前：岸本 好正（きしもと よしまさ）
趣味：バイク・ギター・仏像めぐり
一言：あかりの家の入所施設で、19年勤務していました。今春、ワークホームに転勤してきました。新人として新鮮な気持ちでしっかり支援を頑張りたいので、よろしくお祈ひします。



名前：谷口 真（たにぐち しん）
趣味：サイクリング
一言：過去10年スーパーで働き、その後あかりの家の入所施設の方で10年働いた後、今年の春にワークホームに異動してきました。まだまだ分からない事ばかりですが、働いてきた経験を活かし頑張りますのでよろしくお祈ひします。



~あかりの家で頑張っています!!~



皆さまお久しぶりです。宮本です。今年4月より、ワークホーム高砂からあかりの家に環境を変え、新たな一歩を踏み出しております。ワークホーム高砂では11年間お世話になり、数多くのことを学ばせていただきました。22歳でやってきた青年が気づけば33歳になっていました（笑）。正直なところ、「人と人とが接する」仕事ということで難しいことも多く、仕事終わりの車の中で頭を悩ませることも度々ありました。

一方で利用者と一緒に何かをすることの楽しさ、「気持ちを通じた（宮本）という存在を認めてもらった」時の嬉しさはとても大きく、今ではその積み重ねが自分自身の「やりがい」となっています。ワークホームでの様々な経験を活かしつつ、これからはあかりの家で頑張っていきたいと思ひます。（宮本）



4月1日からの新たなパートさん紹介!!

名前：神谷 典子（かみや のりこ）
趣味：韓流ドラマ
一言：なっところの『人手』ではなく、『人材』になれるよう笑顔をもっと一生懸命努力します。

月刊「ワークホームだより」6月号

発行:2021年5月25日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



危機管理対応が求められる季節に・・・

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

5月16日、近畿地方に梅雨入り宣言が出されました。歴史に刻まれる超早の宣言です。

この季節を迎えると、熱中症をどう防ぐのかというテーマと向き合うこととなります。作業環境の改善というワークホームの永遠のテーマであり、昨年度までは「クリーニング作業」と「納豆作業」の両方でこのテーマと向き合っていました。今年からは、納豆工房については作業環境が改善されエアコンを上手に使うことで対応できると思いますが、課題はやはりクリーニングの現場です。今年も暑さ対策として定期的に水分補給を実施し、保護者会から提供していただくスポーツドリンクを使いながら熱中症対策を進めることにしています。今年は、大型ルーファン（換気扇）を2階の大型乾燥機上部の屋根に取り付けることとしており、7月には稼働させる計画です。これにより、熱が外部に放出され、工場内の暑さも多少は改善されるだろうと期待しています。

ところで、こうした季節の到来を予想して、最悪の状態を招かないための準備や計画を進める視点を「危機管理」と呼んでいます。梅雨の到来による大雨や台風が引き起こす自然災害、新型コロナの対策も「危機管理」の範疇です。起こるか起こらないかは判らないけれど、利用者・ご家族の安心と安全を考え、事が起こる前に準備を進め、「誰がどこで何をすべきなのか」を事前に決めて共有しあいシミュレーションしておくことが「危機管理」では大切です。厚生労働省からも、福祉事業所に対して自然災害や新型コロナ感染などを想定して事前に事業継続の計画を立てるよう要請がきています。「業務継続計画（BCP）」と呼ばれるものですが、ワークホームにおいても早期に計画作りに着手したいと考えています。

政府や地方公共団体の新型コロナ対策が後手後手に回っている印象があります。「最悪の状態」を想定することは誰しも嫌なものです。が、「最悪」を想定しておくことは危機管理の前提条件です。「想定外を想定」し「これくらいは大丈夫だろう」という安易な「希望的観測」を排除することで、いつ自然災害が来ても、いつ新型コロナウイルス感染が発生しても対応できるワークになるのだろうと思います。先日も「利用者台帳」の整理の際、「緊急避難先」の連絡先と地図を確認させていただきましたが、これもBCPの一環です。

自然災害や新型コロナに関係する危機管理対策は、ワークホームだけでは難しく利用者・ご家族のご協力があってこそ成り立ちます。どうか、これからもご理解とご協力をよろしくお願い致します。

～お知らせ～

6月13日(日)・7月11日(日)に保護者会行事として予定しておりました環境整備については、コロナ感染の状況をふまえ中止いたしましたのでお知らせします。

(保護者会長 藤野洋一)

6月の予定

6月2日(水)	作業班会議
6月9日(水)	清掃・工賃支給日
6月16日(水)	学習会
6月23日(水)	職員会議
6月30日(水)	会議日

※6月9日の「清掃・工賃支給日」以外は15時終了となります。

お迎えの方はご注意ください。

2020年度 平均工賃のお知らせ

2020年度の平均工賃をお知らせします。

生活介護 36,813円

就労継続B型 47,044円

※平均工賃には夏季一時金、冬季一時金、年度末一時金を含みます。



2020年度は、保護者の方をはじめ関係者のご協力により平均工賃をあげることができました。10月に納豆工房なっとこちゃんがオープンし、納豆事業の収益も徐々に伸びつつあります。また、クリーニング事業についても決算賞与は848,878円と過去最高額をいただくことができました。本年度は、クリーニング事業の決算業績賞与1,000,000円、納豆事業の年間売上高12,000,000円を目標に掲げさらなる工賃向上に取り組んでいきたいと思っています。(楠)



スポーツドリンクで熱中症対策!

今年も保護者会からスポーツドリンクを大量に購入して頂きました。夏場のワークホームには欠かせないアイテムになり、利用者さんも職員も大変喜んでおります。保護者の皆様のご協力に感謝し、今年の暑い夏もみんなで乗り越えて行きたいと思っています。本当にありがとうございます。(吉中)



いけのやフーズのお弁当

今年度より、利用者さんの昼食の楽しみを広げるため、新たな給食業者いけのやフーズさんを1社増やすことになりました。そのため“ひでかつ給食”と“いけのやフーズ”2社のお弁当を月替わりで楽しめるようになりました。新型コロナウイルスが流行し外出自粛が続く中、少しでも給食を通して利用者さんの楽しみに繋がればと思っています。なお給食業者への食数連絡の関係上、欠席の際には当日の8時45分までにワークホーム高砂に連絡いただきますようお願いいたします。(吉田)



実習生受け入れ

5月11日から実習生の受け入れをしています。今年から働きたいと意を決して、実習に応募してくれました。働きたいけれど、様々な理由で働けない人がいます。そういった方を「社会と繋げていきたい。一緒に汗をかいて頑張りたい。」そう思った思いで実習生を受け入れています。実習初日は働けるかどうか不安が強かったようですが、回数を重ねるにつれ、不安も解消されて笑顔も見られるようになりました。とても仕事に対して一生懸命に取り組んでくれているので、実習を終え、一緒に働ける事を楽しみにしています。(谷口)

ゴミ捨てレクチャー

1日の最後に職員がゴミを回収していますが、今回改めて「手袋の正しい使い方とゴミ回収」をレクチャーしました。間違った方法でゴミ回収をしてしまうと、職員の手を介してアノブ等がウイルスや菌の感染源となってしまいます。小さい事かもしれませんが、その日々の積み重ねが感染予防と職員の衛生意識の向上につながると信じています。(久木原)



1か月間を振り返って

振り返ると、あかりの家は施設でありながら、自閉症支援を学べる学校のような存在だったように思います。よく「利用者さんに勉強させてもらえ。」と言われましたが、なるほど納得です。ワークホームは社会とのつながりの中、やはり仕事を優先せざるを得ない状況だと思っています。

自分には余裕も力量も足りていませんが、幸いな事にあかりの家には優れた先輩職員がたくさんいらっしゃいます。あかりの家の療育ノウハウをワークホームでも活かし、あかりの家もワークホームから、社会と繋がるとはどういう事を仕事を通じて体感するべきだと感じました。自閉症総合援助センター構想を掲げる法人あかりの家であれば、尚更そこに垣根を作るべきではないと思います。コロナが落ち着いたら、あかりの家からもワークホーム班を編成して一緒に仕事ができれば、なんて考えています。狭い視野でなく、法人全体の社会貢献や意義などを考えさせられます。ワークホームやグループホームの仕事に少しずつ慣れてはきましたが、そんな事をモヤモヤ考えながら過ごした1ヶ月でした。(谷口)



正直なところ、3日目で「いつ辞めよかな」と思いました。そして、つい最近までは「もう辞めよ」と1日3回は思っていました。最後には、仏像好きの僕にとっては「不動明王に罰を与えられているのかな」との考えに至るようになりました。

これは本音です。同じ法人といえど、仕事内容があまりに違ったからでした。辞める理由は数あれど、それでも頑張っていこうと感じさせてくれる最高の理由があります。それは、利用者さんの熱心な仕事ぶりです。まだまだ1ヵ月、もう1ヵ月ですが、今は覚悟と期待で胸を膨らませています。ありがとう、利用者さん。(岸本)



納豆新商品について

5/24(月)から、納豆に使用している「大豆(生豆)」を福祉アンテナショップで販売します。各300g ユキホマレ/330円 ユキシズカ/300円 佐用もち大豆/350円 です。煮豆や煎り豆にするとなっとこちゃんとは違った味わいが楽しめます。

また、6/1(火)からはなっとこちゃんの新商品「なっとこちゃん 梅肉入り」をアンテナショップで選考販売します。梅肉は、現在のたれに会うものを職員で試食し決定しました。夏に向けてさっぱりとしたものになっています。(大谷)



《試食会の様子》

なっとこちゃんホームページ開設!

なっとこちゃんの広報戦略として、6月7日に新たにホームページを開設します。内容は、「商品ラインナップ」、「納豆づくりへのこだわり」、施設を紹介する「納豆工房について」に加え、納豆マガジン村上竜一さんの「コラム」や、納豆の疑問に答える「Q&A」。フェイスブックやインスタグラムいわゆる「SNS」との連動でタイムリーな情報も発信していきます。また、開設にあわせ、「ネット販売」も開始します。盛りだくさんの内容としておりますので、ご覧ください。(長谷川)



祝 姫路山陽百貨店デビュー

この度、バイヤー様にお声掛けいただき姫路山陽百貨店催事コーナーにてなっとこちゃんを販売することになりました。期間は**6月23日(水)から6月29日(火)の1週間**で、営業時間は10時から19時30分(29日のみ17時まで)となっています。姫路山陽百貨店地下食品売り場「催事コーナー」にて販売いたしますのでご近所お誘いあわせの上、ご来店をお待ちしております。(楠)

納豆工房捕虫器を設置

納豆工房の作業場に捕虫器が5台設置されました。納豆工房周辺では小さな虫が多く飛んでいることもあり、夏になり虫が本格的に増える前に捕虫器を導入しました。衛生的な環境で異物混入を未然に防げるよう作業環境にも気を付けて“なっとこちゃん”製造を進めていきたいと思っています。(吉田)



月刊「ワークホームだより」 7月号

発行:2021年 6月 24日 発行者:ワークホーム高砂
〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111
http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com

みんな同じ空の下に生きている

ワークホーム高砂施設長 齋藤 克己



手元に、古いレコードアルバムがある。タイトルは、「みんな同じ空の下に生きている」。1975年に発売されたこのレコードは、全部で13曲が収録され、作詞は奈良県立明日香養護学校生徒・卒業生、作曲と歌は奈良フォーク村会員、歌詞カードには、当時、日本女子大学で教鞭をとっていた一番ヶ瀬康子先生のコメントと同時に、片隅には「たんぼぼの家づくり運動協賛、レコードの売上金より《たんぼぼの会》の家づくり基金に寄付されます」とある。

奈良たんぼぼの会は1973年に設立され、財団法人たんぼぼの家は1976年に設立された。障害者のありのままを受け止め、彼らの生きざまから芸術活動へと繋ぐ「エープル・アート」という考え方は、既に40数年前の彼らの運動からスタートしていた。私が高校1年生の頃で、このアルバムとの出会いが障害者福祉の世界へと歩みを進めるきっかけともなった。

当時、奈良フォーク村の青年たちは、「わたぼうしコンサート」を開催していた。これは今も続いている。「わたぼうしコンサート」の理念をたんぼぼの家のホームページから引用すると、「わたぼうしコンサートは、障害のある人たちの心を歌うコンサートで、障害のある人たちが書く詩には、私たちが失いがちな《生きる強さ》《心のやさしさ》《いのちの尊さ》などがあふれています。こうした思いをメロディーにのせて歌い、社会の理解と共感を深めようと、全国各地で開催されています。「わたぼうしコンサート」という新しいかたちの運動は、これまでの福祉に対する暗いイメージを一新し、障害のある人たちの「文化」に光をあてるきっかけをつくりました。また、それまで障害者問題に無関心だった人たちの間で、障害のある人への意識が高まり、さまざまなボランティア活動が生まれてきました。しかし、何といたっても大きなことは、社会の無関心さに絶望を感じていた障害のある人たちが、同じ社会の仲間として受け入れられ、また、その未知なる可能性を評価してくれる人たちがいることを知ったことです。それは、生きる勇気となり、たくさんの障害のある人たちが社会参加を果たしていききました。」

「社会啓発」「共生社会」実現のための重要な視点を教えてくれる一文であり、ワークに欠けている視点なのではないかと反省している。

夢

作詞 山本公三 曲 生田 善太郎

車椅子にすわって 僕は 僕は考えた 車椅子にすわって デイトが できるだろうか

このごろ そんなことを 考えてしまう 笑われそうな 気がするんです

僕だけ 僕だけ 他の世界にいるみたい みんな同じ空の下 生きている 生きている

7月の予定

- 7月6日(火) グループホーム利用者さんワクチン接種
- 7月7日(水) 職員会議
- 7月14日(水) 清掃・工賃支給日
- 7月21日(水) 学習会
- 7月27日(火) グループホーム利用者さんワクチン接種
- 7月28日(水) 作業班会議

※7月14日の「清掃・工賃支給日」以外は15時終了となります。

お知らせ ~健康診断について~

7月17日(土)午前中にワークホーム高砂、納豆工房利用者さんと職員の健康診断を予定しております。

健康診断につきましては、正しい数値結果を得るため朝食を抜いてご参加いただきますよう、ご協力をお願いします。また、土曜日公休の利用者さんにつきましては、お手数ですが、健康診断の時間帯のみ来ていただきますようお願い致します。詳細につきましては、後日、通い袋を通して連絡させていただきます。(久木原)

退職職員



佐伯 真さん

私事ではございますが、6月末をもちまして退職することになりました。ワークホームに来てから、先輩支援員の皆様にご指導いただき、大変感謝しています。そして利用者様と一緒に過ごした時間は私にとって、かけがえのないとても貴重な時間になりました。ワークホームでご指導いただいた事と学んだ事を大切にしていきたいと思っています。

最後になりますが、今後のワークホーム全体のご活躍を祈念しております。約1年半の間ありがとうございました。

(佐伯)

今月の担当は吉田でした。

納豆工房 なっとこちゃん 新商品発売開始！

6月7日から新たにピンク色の「なっとこちゃん梅肉味」が発売されました！職員全員で試食をし、決定した梅肉です。

これからの暑い時期にもぴったりで、そうめんやうどんに絡めて食べてもさっぱりと食べやすいものになっています。アンテナショップ、個人販売の限定商品です。ぜひご賞味ください。
(大谷)



挑戦 姫路山陽百貨店 新たな挑戦中！！

納豆工房の次の挑戦は山陽百貨店での販売です。

マスク着用もある中での試食販売ということもあり、なかなか試食もして頂けませんでした。食べられたお客様からは、柔らかくて美味しいと好評をいただいています。試食をして頂いたお客様の多くが、買って下さいました。舌の肥えたお客様にも受け入れられる品質だと自信を持ちました。売れ筋は、1袋540円のセットでした。
(谷口)



クリーニング

商品の入れ替え

今年も布団の入れ替えの時期がやってきました。

この時期が来るといよいよ夏がやってくるなど実感させられます。片づけても、片づけても出てくる布団のラックを約1ヶ月掛けて入れ替えていきます。作業進捗が気になり作業を優先しがちになりますが、安全第一で体調面に気を付けて取り組んでいきたいと思えます。納豆工房の立ち上げにより作業人数が減って初めての夏がやってきましたが、みんなで助け合って行きましょう。梅雨の時期で湿度が上がリ気温以上に暑さを感じる作業場ですが“ワンチーム”で乗り越えていきたいと思えます。
(吉中)



オンラインショップ開設！

6月7日、納豆工房なっとこちゃんのオンラインショップを開設しました。

現段階では「なっとこちゃん4種16個セット」と「佐用もち大豆16個セット」のセット販売をしています。ギフト包装も予定していますのでプレゼントに最適な商品になっています。オンラインショップのURLはこちらです。

<https://nattokoubou.stores.jp>

今後、商品も追加していく予定ですので是非、チェックしてみてください。

(藤井)



〈オンラインショップ〉



熱中症対策にアクエリアスを！

6月に入り、作業場の温度も30℃を上回ることが多くなってきました。ワークホームでは毎年この時期に体調を崩される職員や利用者さんが多く、30℃を上回る時はすでにアクエリアスの配布を行っています。また今月の月間目標を「こまめに水分補給を行う」にしていることもあり、熱中症対策をしっかり行っていきたいと思えます。

(桂)



大学のパンフレットに吉田支援員兼栄養士が掲載される！

「納豆工房なっとこちゃん」で利用者支援と納豆製造の責任者を務めている吉田麻紀さんが、出身である兵庫大学の学生募集向け広報誌に大きく掲載されました。吉田さんは、国家資格である管理栄養士を取得し、納豆の品質など製造全般の管理にあたるとともに、新商品の開発やパッケージのデザインなどにも関わっています。2019年4月の新規採用時から納豆事業の中心を担っており、昨年の「納豆工房なっとこちゃん」の立ち上げでは、中心的な役割を果たしてくれました。そんな彼女が大学からも高い評価を得て、今回の紹介記事となり、ワークホーム高砂としても大変うれしい出来事でした。
(齋藤)



新しい利用者さん紹介月

実習も終わり、6月より新たに園原侑真さんがワークホームの仲間に加わりました。園原さんは、手先が器用で一通り何でもこなせます。性格も几帳面で丁寧に仕事をしてくれます。

ただ、働く為の体力がまだ十分でないので、初めからフルで働くという事が出来ません。しかし目標を持って、指定の日数をこなしてくれています。少しずつでも働ける時間が延びてくるといいなと、見守っています。

最初の彼の目標は、DVDのデッキを購入する事だそうです。目標に向かって、頑張ってください。
(谷口)



園原 侑真さん

月刊「ワークホームだより」 8月号

発行:2021年 7月 23日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com

今後を考える視点 ～高齢化と重度化を意識する～

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

障害者の働きたい！というニーズに応えるために2003年4月に開所した当事業所は、満18年を迎えました。人の成長でいえば、高等学校を卒業して大人としての歩み始める時期に相当し、日本社会では「成人」を迎えたことになります。

この18年は、利用者の加齢18年でもあり、成人を迎えたワークホームの今後を考えるうえで重要な視点でなければならないと考えています。つまり、開設当時に20歳だった方は、40歳に近づき、利用者の平均年齢でみれば既に40歳を優に超えました。今後のワークホームを考えるとき、この利用者の年齢は無視できないファクターだと言えます。

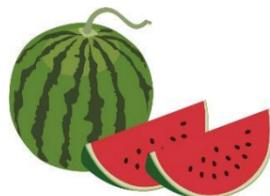
現在、厚生労働省の中に設置されている「社会保障審議会障害者部会」の中で、障害者就労の課題とあり方が検討されていますが、その中でも「高齢化」と「重度化」は大きな課題として取り上げられています。まさに、ワークホームの課題もそこにあるといえるでしょう。

年齢を重ねれば、若い時のようにバリバリ働くことはできません。体力も落ちますし、腰も痛くなる。病気の確立も高くなりますし、エネルギーも落ちてきます。こうした、加齢に伴う課題を意識しながら、今後の作業を考える必要性に迫られています。世間と同様に8時間の労働を位置づけることは、もはや難しいでしょう。特に、現在のクリーニングは、座ってゆったりとできる作業環境ではないため、利用者がいつまで耐えられるのか、正直不安です。「そろそろ限界に近づきつつあるのではないか」、利用者の働く様子や職員の言動から、早急に今後を議論し結論付ける必要に迫られています。

そろそろ、大型機械も耐用年数を迎えてきました。GOTOさんとも機械の更新の有無も含めて今後の在り方を議論し始めています。結論は何も決まってはいませんが、今後を考えるうえで「高齢化」と新たな利用者さんの「重度化」については、議論の中心に据えなければならないと考えています。ちなみに、社会保障審議会では、A型事業所の在り方を抜本的に議論するなかで、働ける方は、企業の「雇用」対象とすべきとの意見が強く出始めています。そうなれば、当事業所のようなバリバリ働ける若い人を求める工場型の事業所は、利用者の確保が難しくなるのは必然で、その風はもう吹き始めているといえるでしょう。それが、新たな利用者の重度化傾向として表れてきていると思っています。

私は、これからの福祉就労支援型事業所は、障害の重い人が働ける事業所であるかどうかと問われると考えています。そのためには、利用者支援の専門性の高さが問われ、利用者にとって働きやすい環境や丁寧な支援ができる物的・人的環境が整備されていることが必要条件となります。現在のクリーニング事業でその環境を整えることが可能なのかどうか、GOTOさんの知恵もお借りしながら議論を詰めていきたいと思えます。

今後「障害者福祉」の仕事は、「重度化」と「高齢化」へと確実に特化していきます。そうした流れを見据えて、事業所の将来を検討していきますので、関係各位の幅広いご意見をいただければ幸いです。



8月の予定

8月4日(水) 職員会議

8月8日(日) 保護者会役員会

8月11日(水) 清掃・工賃支給日 伊集院さん送る会

8月18日(水) 夏の行事

8月25日(水) 作業班会議・学習会

※8月11日・18日は16時半終了となります。

※8月4日・25日は15時終了となります。

お迎えの方はご注意ください。

納豆工房の新しい職員さん



神先 袖衣奈 (かんざき ゆいな)さん

7月から納豆工房で働く事になりました、神崎袖衣奈です。

まだまだ覚える事も沢山あり、大変な事もありますが一生懸命頑張りますのでよろしくお願いします。

趣味: 音楽鑑賞

納豆工房日曜日閉店のお知らせ



日頃より納豆工房なっとこちゃんをご利用いただきありがとうございます。

2021年8月1日より納豆工房定休日が下記の通り変更になります。

年末年始→毎週日曜日・年末年始

また、まほろばのクリームパンの販売につきましても日曜日→月曜日に変更になっております。

今後とも、納豆工房なっとこちゃんをご愛顧いただけますよう、お願い申し上げます。(吉田)

今月の担当は谷口でした。

新型コロナウイルスのワクチン接種

7月6日、高砂市医師会のご協力のもと、グループホームの入居者と職員を中心に、第一回目の新型コロナウイルスワクチンの接種を受ける事ができました。当日は大きな問題もなく、何よりもグループホームの利用者さんは、みなさん静かに接種を受ける事ができ、感心しました。接種後から翌日は、「腕が痛い。」という反応はありましたが、発熱等大きな副反応は無く、無事終了しています。

次回は7月27日の予定です。

(久木原)



健康診断

3回目となった空腹時での健康診断。全員朝食抜きで来所する事ができました！

今回、初めてワークホームで健診を受けた園原さんも、無事に健診を受ける事ができました。採血が苦手な利用者さんも年々採血に慣れてきており、成長されている様子を見る事ができ、嬉しい気持ちになりました。また、今回の健康診断も新型コロナウイルス感染予防の為、3密を避ける配慮をした健康診断となりましたが、保健センターの方々と支援員の協力のもと大きな混乱も無く終える事ができました。

今回の検査結果を踏まえ、精密検査の必要性があれば病院受診やかかりつけ医への報告を宜しくお願いいたします。

(久木原)



作業環境の改善

今年も計り知れない猛暑と戦うクリーニング作業。作業環境の改善として

大型ルーファンを設置しました。

作業進捗を落とさないために作業場温度を少しでも下げることが必要になっています。まだまだ改善しないとイケない箇所はたくさんありますが、出来ることから作業環境の改善に努めていきたいと思えます。

(吉中)



実習生さんの受け入れがありました



西神戸高等特別支援学校の1年生 山下 壮勢君が、7月5日から9日までの5日間、ワークホームのクリーニング作業の実習に来られました。環境的に蒸し暑い時期とあって、大丈夫かなと正直心配していましたが、大雨で警報が発出された1日を除いて、見事4日間頑張りきってくれました。立ちっぱなしの作業とあって、足を辛そうにされていることもありましたが、集中力を保って取り組んでくれました。最後に「働くってたいへんだけど、先輩のみなさんは熱心に取り組んでおられて凄いな」と嬉しい感想を言ってくれました。

(岸本)

第2回事業所説明会開

7月21日、今年度2回目となる事業所説明会を行いました。今回は6月開催時よりも多くの方に来ていただきました。共同生活援助の場であるグループホーム、就労支援の場である納豆工房 なつこちゃん・ワークホーム高砂を見学していただき、それぞれの事業所について説明を行いました。この見学を通して保護者様のニーズ、当事者様の要望など生の声をお聞かせいただき、我々としても勉強になりました。今後はこのような声を踏まえ、必要とされる事業所作りをしなればと、気持ちが引き締まりました。8月27日には第3回目の見学会も予定しておりますので、よろしくお願いします。

(楠)



月刊「ワークホームだより」10月号

発行:2021年9月24日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



共生社会実現への模索

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

9月5日、東京パラリンピックが閉幕した。障害を持つアスリートたちの活躍に多くの国民が感動した。スイミングスクールに通う来年小学校に入学する私の孫も、パラ水泳を見て、「手も足もないのになんであんなに進むの？ 凄いな〜」と素直に感動していた。そして、テレビに映る車イスバスケットを見て実際に見たいと言い出した。日頃、障害者やパラスポーツに接する機会の少ない私の孫にとっては、今回のパラリンピックは多くの驚きと感動を与えたのだと思う。しかし、それは同時に、日常、触れることの少ない「珍しい光景」として映ったのではないか。逆説的な言い方をすれば、障害者とパラスポーツが「普通」に見られる社会ではないから、車イスバスケットを直接観たいと思ったのだと思うし、「障害者=できない人たち」という固定観念がいつの間にかしみついているから、「驚き」となったのではないだろうか。この国が障害者を社会の中心に置いてこなかったことの証明が今回のパラリンピックの一側面にはあると、斜に構えた見方をしたのは私だけなのだろうか。

今回のパラリンピックは、「共生社会の実現」と「多様性を認め合う社会の実現」をスローガンにしていた。新型コロナの感染を危惧する保護者の反対を押し切って、障害者理解の促進という大義名分で小学生にあえてパラ競技の観戦機会を設けた東京都教育委員会などの取り組みは、それはそれでスローガンと目標は認めよう。だが、日常はどうか。閉会後の取り組みはどうか。閉会後まだ1か月も経たないのに国民意識から障害者とパラスポーツが忘れ去られようとしてはいないだろうか。パラリンピック開催のためだけにスローガンを持ち出したと言われたい、今後の取り組みこそが問われている。

1970年代後半から80年代にかけて声高に叫ばれていた「ノーマライゼーション」や「インテグレーション」「インクルーシブ」といった「共生社会」につながる社会理念の具現化は、何故進んでこなかったのか。それは、多様な側面があるとしても、やはり子どもたちの育つ環境の中で「健常児」と「障害児」を切り離し、共に育つ機会を極端に阻害してきたからなのではないか。「特別支援」という名の障害のある子とない子を切り離す教育。「特性理解」という名で自閉症児を社会から隔離する取り組みになら疑問を持たない福祉専門家たち。今一度、共生社会実現のために何が重要なかを問い直すべきなのではないだろうか。幼少期から多動で知的障害のあるA君が隣で走り回っている。車イスのBさんも、視覚障害のCさんも、医療的ケアを必要とするD君もいる。そんな環境の中で普通に育った子どもたちは、きっと共生社会の担い手として普通の感覚で「人」としての障害者を受け入れるに違いない。

同じ教室に障害児がいたらわが子の教育が遅れるという発想を持つ親は少なくない。しかし、その思想こそが、障害者を排除し共生社会実現の妨げとなる論理なのだ早く社会が気づかなければならない。

10月の予定

10月6日 職員会議
10月13日 清掃・工賃支給日
10月20日 主任会議
10月27日 学習会

※10月13日のみ17時00分終わりにいたします。
送迎のある保護者の方は注意して下さい。

新任職員の紹介

新たな仲間が増えました！！

新たに3名の職員が仲間になりました。正規職員として9月15日より花岡諒さん、嘱託職員として8月2日より原口保一さん、9月1日より田中麻実さんが採用されました。



花岡 諒さん
(はなおか りょう)
クリーニング班
趣味: サッカー
新任職員の花岡

諒です。わからないことばかりで
ご迷惑をお掛けしますが宜しくお願い致します。少しでも早く皆さんの顔と名前を覚えられるよう
努力します。



原口 保一さん
(はらぐち やすひと)
クリーニング班
趣味: ゲーム・アニメ賞
8月よりクリーニング

班で働かせていただいている原口保一
です。不慣れな作業で皆さんにご
迷惑をお掛けすると思いますがよろ
しくお願いします。



田中 麻実さん
(たなか あさみ)
納豆班
趣味: 料理をする
こと・アニメ鑑賞

9月から納豆工房なつとこちゃ
んで働くことになりました田中麻
実です。慣れないことも多くあり
ますが、一生懸命頑張ります。
よろしくお願いします。

野村さん1か月を終えて感じたこと

ワークホームに入社してあっという間に1ヶ月が過ぎました。少しずつ仕事にも慣れてきましたが、まだまだ覚えなければならないことがたくさんあります。大変な毎日ですが、利用者さんが真面目に働く姿を見ていると自分も頑張らないといけ
ないと感じさせられます。1日でも早く仕事を覚え、利用者や家族のみなさんに
信頼される職員になれるよう努力していきます。(野村)



今月の担当は吉中でした。

納豆工房なっとこちゃん ありがとう1年！！

おかげさまで、『納豆工房なっとこちゃん』は10月19日で1周年を迎えます。

多くの皆様にお力添えを頂きながら、この1年、利用者さん達と力を合わせて皆様に愛される納豆づくりに励んでまいりました。浜国道から見える看板は多くの方の目に留まり看板を見て問い合わせをいただくことも増えています。また、遠方からラジオやマルハリを見て来店される方もおられ、少しずつではありますが知名度は上がってきているように思います。これからも高砂、加古川、姫路だけではなく、全国で知られる「なっとこちゃん」になれるよう頑張っていきたいと思っておりますので応援よろしくお願いたします。

また、コロナ禍で集まってのイベントを行うことが出来ませんが、1周年を記念して、福祉アンテナショップでのポイントアップキャンペーンや、あかりの家の『さをり織り』とコラボした商品の販売、高砂のたまごやさん籠谷のジェラート店「yellow」のジェラートを新たに販売することなどを予定しています。ぜひこの機会に福祉アンテナショップへお立ち寄りください。（大谷）



納豆工房
なっとこちゃん
1st anniversary
ポイントアップ
キャンペーン
通常500円→1ポイント
10月1日～10月31日 限定
250円
→1ポイント



山陽百貨店 ぜひ、お越しください！

9月22日(水)～28日(火)まで
10月13日(水)～26日(火)まで

新商品紹介

福祉アンテナショップで姫路市にある事業所『いっぽいっぽ』さんより藍染雑貨が入っています。1つ1つ丁寧に作られており、またすべて1点ものです。ご来店時には是非お気に入りの1つを見つけてみてください。（大谷）



この度、バイヤー様に再度、お声掛けいただき山陽百貨店催事コーナーにて



『なっとこちゃん』を販売いたします。期間は9月22日(水)から9月28日(火)の1週間、営業時間は10時から19時30分、28日の最終日のみ17時までとなっています。

また、10月13日(水)～26日(火)についても、姫路山陽百貨店地下催事売り場にて販売いたしますので、ご来店をお待ちしています。（金本）

いけのやフーズの見学を終えて

9月7日、いけのやフーズの見学に行ってきました。今回は、栄養士が変わって初めての見学で、あいさつを兼ねた調理現場の確認と初めて出会ういけのやフーズの栄養士さんとの意見交換が主な目的でした。

お弁当の調理や盛り付け作業をする作業区域については、汚染区域と清潔区域の区分分けを作業スペースの関係で完全に分けることが難しいため、作業時間を作業内容で分けることで区分の許可を得ているそうです。作業場内で使用する食材はカット野菜や下処理済みの肉や魚を使用することで限られたスペースで作業が出来ているようでした。現在の洗浄室はビニール製の簡易的なドアですが、今後は工事を行い完全な室内にするそうなので、次回見学の際に再度確認したいと思います。（三木・田中）



最近のクリーニング事情・・・

最近のクリーニング作業の特徴としては、8月中旬に大型布団洗濯機が故障したため、GOTOの社員さんが朝7時過ぎから夜20時過ぎまで長時間の洗濯を行っています。生産効率を上げるために布団だけではなく他の商品も同時に洗濯し、翌日、ワークホームの職員が通勤すると、作業場は洗濯商品の山になっているのが現状です。特に、タオルの洗濯量は著しく、タ



オル班は出荷の処理が追い付かない程、大変な日々が続いています。大型布団洗濯機は12月には更新される予定ですが、それまではこうした日々が続きそうです。しかし、作業場の気温は真夏のピーク時と比べると下がってきていますので、何とかみんなで乗り越えていきたいと思っています。（桂）

3回目の事業所見学会を実施

8月27日、本年度3回目となる「事業所見学会」を開催しました。昨年度に納豆工房なっとこちゃんがオープンし、ワークホーム高砂のことをもっと知ってもらいたいとの趣旨で例年よりも多く開催しています。対象もこれまで特別支援学校高等部の生徒や保護者の方を中心にしていたのですが、今回は一般の方や中等部にも広げて行いました。ワークホーム高砂や納豆工房なっとこちゃんだけではなく、希望山荘日笠や友愛の家も見させていただきました。今回の見学会を通して感じたことは、グループホームのニーズが非常に高いという事でした。これからもこうした機会を可能な限り多く持ち、当事者さんや保護者さんの意見を集め今後の事業所運営に活かしていきたいと思っています。（楠）



後輩の見本に！！

10月4日から8日までの5日間、東はりま特別支援学校高等部3年生の木田 凜さん、船田 彩音さんの2名が実習にやってきます。2人ともワークホームに実習に来られるのは2度目です。9月15日には、事前のオリエンテーションをさせていただきました。今回はクリーニング班で作業を行って頂く予定です。ワークホームで働く人はみんな仲間です。卒業生の方は良い見本になるように、そうじゃない人も真面目に働く姿を実習生に見せてあげてください。快く受け入れてあげみんなで頑張っていきましょう。（吉中）



月刊「ワークホームだより」11月号

発行:2021年 10月 26日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-fakasago.org/ E-mail workhome@nifty.com

1周年を迎えて～納豆工房なっところちゃん～

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

10月19日、「納豆工房なっところちゃん」が1周年を迎えました。利用者さんと職員の頑張りはもちろんのこと、多くの関係者のご協力があってこそこの1周年です。保護者の方々をはじめ、関係各位に心から感謝申し上げます。

この1年、「納豆工房なっところちゃん」は、より多くの方々に「なっところちゃん」を知ってもらうための取り組みを進めてきました。利用者さんの工賃向上をめざすうえでは商品の販売拡大が必須の条件であり、そのためには納豆工場の併設店舗だけでは広がり欠けるため、店舗から少し離れた地域での販売にも知名度を上げるために積極的に出かけてきました。兵庫セルフセンターの企画で「コープこうべ」で販売し、JA兵庫南の店舗である「ふあーみん」や兵庫西の「旬菜蔵」にも商品を置いてもらえるようになりました。また、「もち大豆」のつながりで佐用町にある「げんき工房さよう」にも「なっところちゃん」を置いてもらえるようになり、最近では、姫路山陽百貨店の催事コーナーで販売も実現しています。もちろん以前からご協力をいただき「なっところちゃん」の「育ての親」ともいえる「ヤマダストア」については、朝霧店などの店舗拡大に際してお声かけいただき、明石・神戸方面のお客様拡大にもご協力をいただいています。こうした取り組みにより、「なっところちゃん」のファンが広がり始めているのを肌で感じています。

ところで、この一年の中で見えてきた課題もたくさんあります。一つは、利用者支援に関わるもので、作業支援技術を磨いていく職員育成課題です。障害者就労支援の基本は、利用者の今ある能力だけに着目するのではなく、潜在能力をいかに上手に引き出すのかという能力開発の視点と支援技術です。そのためには、現在の作業工程を分析して作業方法を見直すなどの取り組みが必要となります。納豆に携わる利用者についても、今やれることだけを惰性的に行うのではなく、新たな作業に挑戦してもらいたいと思いますが、こうした取り組みについては、やはり十分だとは言えない状況です。

そして、二つ目は、いかに無駄なく効率的に「納豆工房」を安定経営するのかという経営課題です。1年が経過して初期投資がほぼ完了し、建物の維持管理経費も見えてきました。経営者としての手腕が問われる段階に入ってきたといえます。

利用者支援と安定経営は、車の両輪です。1周年を迎えて、この両輪を上手に回しながら利用者さんの想いに応えられる「納豆工房なっところちゃん」をこれからも目ざしていきたいと、想いを新たにしています。

11月の予定

11月3日 清掃

11月10日 WH/GH 運営連絡会議・工賃支給日

11月17日 会議日

11月24日 会議日

**11月17日、24日は15時30分終わりにいたします。
送迎のある保護者の方は注意して下さい。**

新しい仲間が加わりました。



有瀬 奈津芽です。

久しぶりにワークホーム高砂で働いて頑張ってます。

慣れないこともあるけど、一生懸命頑張るのでよろしくお願いします。

上の文章はご本人に頂いたコメントです。

有瀬さんは、2017年の4月から3か月間ワークを利用されていました。今回は2回目の利用ですが、一段と成長して帰ってきてくれました。作業は丁寧ですし、もの静かで淡々と作業をされる姿が印象的です。これからもみんなでご支援していきたいと思っております。(桂)



いなみ野特別支援学校見学会

10月12日にいなみ野特別支援学校 中等部2年生のみなさんが見学に来られました。中等部2年生という事で、初めて事業所の見学をする生徒さんもたくさんいました。これから中等部を卒業し、高等部へと進む中でできるだけ多くの事業所を見学し、自分にあった事業所を見つけてくださいとお話しました。また現場では作業体験も行いました。少しでもより良い経験となってくれば幸いです。

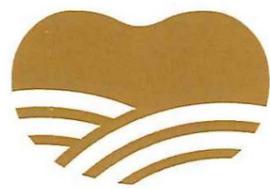
(楠)



お礼のお手紙を頂きました



今月の担当は楠でした。



納豆工房
なっとこちゃん

みなさまのご愛顧で 1周年

1周年の横断幕が
お出迎え

多くの皆様へ支えて頂き、納豆工房なっとこちゃんは2021年10月19日で1周年を迎えることが出来ました。これからも感謝を忘れず、皆様に喜んでいただける納豆を利用者さんと職員が協力しながら作っていきたく思いますので、これからもよろしくお願いいたします。(大谷)

1周年 記念イベント続々開催中

アンテナショップでは、1周年を記念した商品を発売中です。是非この機会にお求めください。



《贈答用納豆「花なり」 2,700円》

お孫さんからおじい様、おばあ様へ、お知り合いの方へのちょっとした手土産に。納豆が大好きな方への贈り物にと幅広い用途でお使いいただけます。



《佐用もち大豆「わさび」/90円》

人気の佐用もち大豆に新フレーバー「わさび」が登場
わさびの爽やかさが癖になります。



《さをり織りのトートバック/550円》

あかりの家さおり班とのコラボで生まれました！。限定 12個の販売となりますので、お早めにお求めください。

新任職員 ~これからに向けて~



8月から、納豆工房でなっとこちゃんの製造に携わってきました。最初の頃は指示されたことをこなすという思いが強かったですが、これからは自分で考え行動出来るように変わっていきたくと思っています。

また、お客様に「なっとこちゃん、美味しいね。」「タレがとても美味しい。」と感想をいただき、これからも利用者さんと一緒にお客様に安心して安全ななっとこちゃんを提供するために、努力していきたくと思っています。よろしくお願いいたします。(三木 公美子)



納豆工房で働いて1か月が経ちました。名前を覚えて話しかけてくださる方が増えてとても嬉しいです。納豆工場の作業も少しずつ慣れてきました。これからも一生懸命頑張りますので、よろしくお願いいたします。(田中 麻美)



ワークホーム高砂に着て1ヶ月が経ちました。まだまだ覚えることも多く、正直バタバタしています。早く皆さんに追いつき、またお手本となれるようにこれからも日々精進していきます。(花岡 諒)

なっとこちゃん 山陽百貨店出品

山陽百貨店での出店も今回で3回目となりました。今回は10月13日から26日の2週間の出店となりました。これまでは販売員さんに協力してもらっていましたが、今回より販売は全て職員で行いました。お客様の声を直接聞くことができ、大変貴重な経験をしました。また、「なっとこちゃん」を知っているというお声もたくさん頂き、励みにもなりました。利用者さんと共に作り上げた「なっとこちゃん」をもっと知ってもらい食べてもらいたいと思います。(楠)



希望山荘に新しい職員さん



10月より毎週土曜日に 高橋 ゆかり さんが希望山荘の早出として勤務して下さることになりました。普段はあかりの家の事務局で働かれています。土曜日のみ希望山荘に来てくださいます。どうぞよろしくお願いいたします。(岸本)

月刊「ワークホームだより」12月号

発行:2021年 11月 24日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-fakasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



7時間労働と意思の尊重

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

ワークホーム高砂は、「働くこと」を中軸に据えた運営を行っている。そして、開設から現在まで利用者の働く時間を7時間と定めている。この7時間労働という運営の柱については、「働かせすぎではないか」とのご批判をいただくことも少なからずあるが、当事業所の特徴としてこの運営方針を貫いてきた。もちろん株式会社であるGOTOさんとの協業をスムーズに行い、障害者の働く場と工賃を保障するためには必要な条件でもあった。しかし、「働かせすぎではないか」とのご批判については、いつも私自身に課せられた課題であると認識し、その答えと言うか言い訳を自問自答してきている。確かに、B型事業所の平均作業時間は5時間程度で、7時間も設定している事業所は全国的にも珍しい。

ところで問題なのは5時間か7時間かということではなく、7時間の何が問題なのかということ。ある人は、「そんなに働かせたらかわいそうでしょ!」と言い、働くことは苦痛を与える事なのだという前提に立っている。以前に保護者会の役員さんが、「最近のお母さんは、送迎があつて作業時間も短くて、楽しく一日が過ごせる事業所を探している。以前のように、学校を卒業したら出来るだけ働ける事業所を探すという親は少なくなった」と、言っていたのを思い出す。むろん「労働」には「苦痛」を伴う側面がある。例えば、労働組合では、いかに労働時間を短縮するのかが重要な歴史的課題であった。だから、長時間労働やその人の意に反して働かせることは「虐待」に繋がることを意識しておかなければならない。

しかし、ワークホーム高砂は、働くことが「苦痛」ではなく「喜び」になるような働き方を追求したいと思う。そのためには、労働時間や労働内容、労働の対価としての工賃などを総合的に勘案して「労働の質」を評価しなければならない。そして、その際に最も大切なのが「本人の意思」なのだと思う。「働かされている」のではなく「働きたいからここで働く」という本人の意思こそが、その人の「労働の質」を左右する。だから、最初にワークホームの運営理念を説明して本人に選んでもらうことが大事なのである。「ワークホーム高砂は、働くことを応援する事業所で朝の9時から5時まで昼休憩の1時間と午前と午後の休息時間を除けば、全て作業時間に位置付けている事業所ですよ。その事業所をあなたは選びますか?」と問い、実際の現場も見せていただいて出来れば体験もしていただいて、自らの意思で選んでもらうようにしている。その上で、その人に応じた働き方を問題提起したいと思う。毎日通って来ることや7時間働くことも一つの目標である。だから、その目標達成のために応援するのが私たち職員の仕事なのだと思う。

最初から7時間という目標をクリアできる利用者はほとんどいない。けれども、自ら「ここで働きたい!」と望んでやってきた利用者さんには、惜しみない応援ができる事業所であり続けたいと思う。7時間労働が虐待とならないように配慮しながら、「生きがい」を感じられる働き方をこれからも追及したいと思っている。



12月の予定

12月1日	清掃日
12月8日	工賃支給日
12月15日	職員会議
12月22日	季節行事
12月29日	納豆班棚卸・職員会議
12月1日	16時30分終了
12月8日	15時30分終了

※12月30日(木)~1月3日(月)まで休み。

1/4(火)通常通り開始



東はりま特別支援学校特集!!

11月9日に東はりま特別支援学校 中部部1年生の34名が見学に来られました。中部部1年生ということもあり、初めて事業所の見学をする生徒さんもたくさんいました。これから中部部を卒業し、高等部へと進む中でできるだけ多くの事業所を見学し、自分にあった事業所を見つけてくださいとお話しました。また現場では作業体験も行い、少しでもより良い経験となってくれば幸いです。(吉中)

東はりま特別支援学校の高等部2年生 田中智樹君が、11月8日から12日までの5日間、クリーニングのたたみ班で実習を行いました。やる気が空回りしないか心配になりましたが緊張をしながらも5日間しっかり作業を行う事が出来ました。立ちっぱなしの作業とあって、足を辛そうにされていることもありましたが、集中力を保って取り組んでくれました。最終日に感想を聞くと「疲れたけど楽しかった。」と初日には見られなかった笑顔で伝えて来られました。今回実習が今後の糧になって頂けるとありがたいです。(吉中)



納豆工場の取り組み

「なっとこちゃん」ついに料金改定へ

大豆などの高騰により、ついに「なっとこちゃん」も値上げすることになりました。2021年11月27日から下表のとおり価格改定いたします。どうか、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

商品名	旧価格(税込み)	新価格(税込み)
大粒 45g	70円	80円
大粒 30g(しそのり)	70円	80円
大粒 45g(梅)	80円	90円
小粒 45g	80円	90円
佐用もち大豆	90円	100円
佐用もち大豆(わさび)	90円	100円
大粒 100g	140円	150円

山陽百貨店の販売を終えて

10月13日～26日山陽百貨店に販売に行かせていただきました。今回は2週間という長い期間の中販売員さんは入らず職員で販売させていただいた為、様々なお客様の生の声を聞く事ができ貴重な体験となりました。以前からなっとこちゃんを知って下さっている方も多く来て下さり「なっとこちゃんや。」「この納豆大好き。」といった声をたくさんいただきました。また「山陽で初めて買って美味しかったからまた買いに来た。」といった嬉しい意見もいただき、なっとこちゃんの輪が広がっているのが実感できました。今後も様々な方になっとこちゃんを知っていただけるよう職員一同努力していきたいと思っております。(錦)



BCP 研修参加

11月15日(月)にリモートによるBCP研修がありました。

みなさんはBCPという言葉聞いたことはありますか？

BCPというのは「事業継続計画」のことで、簡単に言うと、自然災害など緊急事態があった際に、事業が継続できるように事前に具体的な行動指針を作成し早期復旧を可能にしようというものです。



福祉事業所においてはこの計画を作成することが義務化されることになっており、行政監査の対象となることから、今回の研修には県内から500名の参加があったそうです。

今のご時世、新型コロナウイルスの関係で、いつ自分たちの法人が事業継続困難になるかわからない状況で、BCPの必要性を感じ、また職員全体が定着できるように取り組んでいきたいと思っております。(桂)

+NUKUMORI マルシェへ初参加

11月5日(金)に兵庫県庁1号館中庭で開催された+NUKUMORI マルシェに初めて参加しました。開催時間は11時30分から13時30分までの2時間と短い時間でしたが、齋藤兵庫県知事を始め県庁職員の方、周辺の方々がお昼休み



を利用しお越しく下さいました。阪神間ではまだまだ知名度の低い「なっとこちゃん」ではありますが、「食べたことあるよ」「どこで売っているの?」とお声掛け頂きました。少しずつではありますが知名度が広がっていていると実感しました。利用者、職員で丹精込めて作った納豆をまずはってもらいたいと思っております。(楠)



ひょうご福祉事業所フェスティバルへ向けて

12月11日(土)、12日(日)の両日に神戸ハーバーランドスペースシアターで開催される「ひょうご福祉事業所フェスティバル」の事前説明会が11月13日開催され、長谷川副施設長と楠で参加しました。今回のフェスティバルは、新型コロナの影響で売り上げが落ち込んでいる兵庫県内の福祉事業所を応援しようと神戸新聞厚生事業団が呼びかけ、兵庫県、神戸市、神戸市社会福祉協議会、神戸新聞の4団体が主催して開催される予定です。2日間の限定開催ですが、「納豆工場なっとこちゃん」は2日間とも出店させていただくことになり、2日間で約120の事業所が参加されることとなります。「なっとこちゃん」は、一度食べてもらえれば、おいしさを分かっていたらと確信していますので、今回の機会を活用して多くの方に「なっとこちゃん」を知ってもらえるよう、当日も頑張ってお届けしたいと思いますので、時間の許す方は是非お越しください。(楠)

研修会に参加しました！！

播淡職員リモート研修会に参加して

11月8日、播淡職員研修会がリモートで開催され、ワークホーム職員を代表してWEB参加しました。入職1年～3年の方が多研修会で、基礎的な要素が多い内容でした。

障害と聞くと、身体障害や発達障害などが先に思いつきますが、「障害」と一言で言っても社会には様々な「障害」があり、「障害」をどう理解するのは簡単なものではありません。演習を通して、今の社会が、まだまだ障害を持つ人にとって、生きづらく暮らしにくい社会であることを改めて知ることができました。また、障害者虐待防止法については、実際にあった話を踏まえながら、リスクマネジメントとしての記録の大切さを学ぶことができ、日々の記録の仕方を見直さないといけないと感じました。

今回の研修ではzoomのチャットを利用して意見交換を行いました。限られた時間の研修会で全員の意見を交換するのは難しかったのですが、チャットを利用したことにより全員が発言し意見交換できることも体験できた研修会でした。(大谷)

クリーニングの課題に挑戦

シーツフォルダー故障…

現在クリーニング班においては、10月下旬に故障したシーツフォルダー(シーツをアイロンする機械)の影響によりリネン類の滞留が起きています。それを改善する為に、今月は毎週水曜日に2時間程度シーツを流し、少しずつ滞留した分を減らしている状況です。目標としては、11月中にリネン類の滞留分をなくしたいと考えています。なお、大型布団洗濯機が12月26日に入る予定で、来年1月からは一段と忙しい日々が続くこととなりそうです。(桂)



GOTO 運営会議がめざすもの

クリーニング現場で働くGOTOの社員さんとワークホームの職員とが現場の運営課題を話し合う、「運営会議」を月に2回程度の頻度で開催しています。この会議は、施設長やGOTOの社長が参加する「経営会議」とは異なり、運営上の課題共有と解決の方向性を話し合うことを目的としています。実際に現場で作業をする中で生じる具体的な問題をGOTOの社員と話し合うことでスムーズな作業運営ができればと思っています。会議のテーマとしては、作業時間の短縮や作業負荷の軽減、季節に関係なく作業をどのように定量化するかなどが主なものです。5年後、10年後のクリーニング事業を大きく見据えながら、新たな機械導入についても話し合っていきます。11月は、1日と19日に開催し、12月20日にも開催が予定されていますが、この会議を通じて利用者さんが働きやすい環境づくりにGOTOさんと一緒に取り組みたいと思っています。(吉中)